



三小だより

武蔵村山市立第三小学校 令和6年 5月号 4月30日発行

教育目標

- よく考える子
- ◎ なかよくする子
- 元気で明るい子
- かいっぱいがんばる子



子供に、「なぜ学ぶのか」を問われたとき

校長 佐々木 琢

新しい学年がスタートして4週目に入りました。子供たちは、クラスの友達や先生との関係づくり、新しい学習との出会いに試行錯誤することもある時期だと思えます

自分の思いや考えをうまく伝えられなかったり、相手の言動を勘違いしてしまったり、うまくいかないこともあるかもしれません。その一つ一つも集団生活で学ぶ大切なことだと考えています。

どうしていくことがよいのかを考えられるよう、学校も支えてまいります。御家庭でも気になることがありましたら、可能な範囲で学校まで御相談ください。

さて、ゴールデンウィークが終わると子供たちの気持ちが、沈むことがあります(大人も)。そんな時、子供に「なぜ勉強しなくてはいけないのか」と問われる場合があります。皆さんはどのように答えるでしょうか。

例えば、「将来、役に立つことがある」

「人生の選択肢が広がる」「自分で考える力が身に付く」などが考えられます。

しかし、もしもそのような問いを言ってくる児童がいたならば、これらの答えを求めているのではないのかもしれませんが。

それは、その子供が「なぜ勉強しなくてはならないのか」と質問したいという気持ちになったのかを考えてみてください。

その答えを知りたいのではなく、「自分は勉強することが疑問に思う気持ちになっていることを相手に分かってほしい」と願っているのではないのでしょうか。例えば「勉強が分からなくてつらい」「授業がつまらない」「習い事がつらい」「友達とうまくいっていない」などを訴えているのかもしれませんが。

そんな言葉を子供から聞いた時には、子供の言葉の裏側にある気持ちにも目を向けなければならぬと考えます。

子供の言葉だけでなく、気持ちに寄り添い支えていくことが大切です。時にそれは、保護者にも、教師にも言えないことを地域の方に伝える場合もあります。

学校、保護者、地域の大人のチーム力で、子供の心の育ちを大切に支えていきたいです。



温かい気持ちに溢れた「1年生を迎える会」と「離任式」